

令和7年度第2回厚木市生涯学習推進会議次第

日時 令和7年10月16日(木)
午前10時から11時まで(予定)
場所 あつぎ市民交流プラザ amyu スタジオ
(アミューあつぎ7階)

1 開 会

2 挨拶

3 案 件

(1) 第1期基本計画後期実施計画の点検結果について・・・資料1

(2) 次期計画の基本理念について・・・・・・・・・・資料2

(3) 次期計画の体系・指標について・・・・・・・・・・資料3

(4) その他

4 閉 会

第3次厚木市生涯学習推進計画第1期基本計画後期実施計画事業点検結果一覧表(令和6年度実績)

資料1

《後期実施計画事業》

No.	実施計画事業名	委員意見	担当課
	全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・84ヶ存在する生涯学習の事業について、市民への周知が不足しているのではないかと。 ・指標の積算・根拠として、コロナ前後の数値から目標値を算出していると見受けられるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在では環境が変化している。それを考慮する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮できない事業については、一旦は廃止や縮小について検討するべきだと考える。とは言え、行政である以上、達成率の低い事業でも継続しなくてはならない事業もあるかと思う。 ・全部で84事業きわめて多種多様に渡ってたくさんの事業が行われていることを知り、もっと多くの人が利用してほしいと思う。市民の皆さんにもっと知ってもらうためさらに広報活動の力を入れてほしい。 ・似たような事業は合わせて一本化してもっとスッキリさせた方がよい。 ・公民館が主体の事業について、地域の活動の担い手が減り続け行事を行うことが難しくなっている。働く人が増え、自分の生活を維持するために他のことに関心を持たない人も多くなか、コミュニティ社会をどのように作ったらいいかが課題。 	全課
	基本方針1 生涯学習活動の充実 (事業No.1～30)	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動に参加する市民年代は子どもから高齢者まで幅広く、国際・国内の交流等、一人一人が学習ニーズに合わせた様々な意見を聴取する必要があり、又、多くの学習内容を駆使する等、参加者の満足度や他に求めている講座内容を幅広く、的確に誰もが参加しやすい学習環境づくりとあらゆる世代への効果的な情報発信を希望する。 ・大規模な自然災害の発生に備え総合防災訓練の実施事業は非常に重要な事であり、地域に於ける継続した訓練を推進することが大事である。達成率が低下している事は危機管理が乏しく思われ参加の呼びかけを大にしたい。 ・生涯学習へのニーズの多様化が進んでいる。既存事業の中に期待したものが無ければ呼び掛けがあっても市民は参加しないため、定期的にアンケートや既に参加した方への満足度調査をすることで、意識の変化や既存事業の改善(周知方法など)に繋がるヒントを得られるかと思う。沢山ある周囲の外部教育機関にとっても参考になるかと思う。また、参加者の地域性や年齢層にも変化が出てきているかも知れない。 ・特に、心配なのは、地域によっては「子ども会の消滅」「老人会の消滅」「自治会加入率の低下」の加速化が見られる。生涯学習を通じて地域の輪が広がり、仲良くなることで、地域活性化も図れるかと思う。 ・既存事業も沢山あり、行政所管部署の尽力もあるが、補助金や支援金を出している事業には「費用対効果」の検証も必要かと考える。 例えば、「国際交流事業補助金」「国内友好都市交流事業補助金」等は、ややマンネリ化していないかを参加者の満足度チェックなどできちんと検証するアフターフォロー体制で臨んでいるか確認して欲しい。 	企画政策課 くらし交通安全課 文化魅力創造課 環境政策課 農業政策課 公園緑地課 危機管理課 健康医療課 市民協働推進課 生涯学習課 河川下水道総務課 こども育成課 青少年課 こども家庭センター 産業振興課
1	海外友好都市等受入派遣事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業1～4について。近年、「国際」というテーマでは、日本人が外国籍の文化を理解すると文脈でのみ理解される傾向が強いように思われるが、共存するためにはどのように日本文化、ないしは日本人のメンタリティーを共有することにつなげられるのかを考察しなければならない段階であるように思われる。これからこのテーマで生涯学習のプロジェクトを立ち上げるとしたら、こうした次元も含んだ二重構造的な性格も求められる可能性を視野に入れることを心がけていただきたい。 	企画政策課
2	国際交流事業補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ受け入れは、子供や家族にとって貴重な経験であると認識している。コロナ禍で海外交流が途絶えてしまったことが原因だと思われるが、今は日本全体がインバウンドで海外旅行者で溢れかえっている時代。海外友好都市と定めずにもっと広い選択肢があっても良いと思う。厚木の観光名所や名物、里山体験など世界に発信し、様々な団体が厚木を訪れてくれることを期待している。 ・事業2,3,4は国際交流に関する事業だが、コロナ禍を経て交流の機会が本当に少なくなっている。交流再開について広く広報などで呼びかけ1件ずつでも増加させてほしい。市民レベルの交流が盛んになると、交流の輪も広まり他市や他国を尊重する気持ちも育つと思う。 	企画政策課
4	国内友好都市交流事業補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市交流事業について、国内外を問わず達成率の低さが気になった。特に補助事業に於いてその傾向が見受けられた。今回はコロナ禍の影響があったとはいえ、目標値をだいぶ下回る結果になったことは残念。これが今回に限ったことであれば良いが、対象団体への周知徹底をお願いしたい。 	企画政策課
6	市史編さん事業	<ul style="list-style-type: none"> ・発刊しない年も何らかの事業を実施し、市民に厚木市史の啓発に努めることも必要であると思う。 	文化魅力創造課
11	緑のまつり開催事業	<ul style="list-style-type: none"> ・観葉植物、多肉植物、花々等有意義なイベントであると認識している。今年は異常に暑かったが、世界的な異常気象を考慮すると近いうちにもう少し早い時期、GW前の土日などに変更した方がよい。また土日だとかなり混みあうので、金土日など3日あればもう少し余裕があるかと思う。 	公園緑地課
12	総合防災訓練実施事業	<ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練中止の場合は延期が必要。自然災害が激甚化しており災害対応力を高める必要がある。地震体験車を経験したことがあるが、実際に体験することは重要。地域住民が行事に参加する数はいろいろな事業で減少している。自分たちの地域は自分たちで守るという意識が必要だ。 	危機管理課

No.	実施計画事業名	委員意見	担当課
16	輝き厚木塾開設事業	・あらゆる分野の講座があり、講師が厚木市民で、受講者もほとんどが厚木市民。習い事という敷居がかなり低いことでとても気軽に始められ、そこで新しい出会いがあることも魅力の一つ。また講座をきっかけに興味が見つかったり新しいことへの挑戦の一步にもなる。生涯学習で生きがいを見つけたという方も少なからずいる。今後も継続したい事業の一つだと思う。	生涯学習課
20	河川学習事業費	・天候に左右され中止せざるを得なかった事業があり、今年度は実施時期を考慮するとのことだが、参加者の健康を第一に考えて計画立案をお願いしたい。また、中止の場合の代替案の検討も必要ではないか。 ・実施時期を涼しい時期に変更したのは良いことだ。猛暑が続く日中の活動が思うように実施できないことは行事を計画立案する担当部署にとっては大変な問題である。市民スポーツ大会は8月→9月→11月と変更せざるを得なくなった。鮎まつりも来年から11月に変更になるそうだが、公民館まつりや地区行事があるため行事の過密化が心配である。	河川下水道総務課
25	健康スイミング事業	・目標値が2,100で高すぎるため実績値が1,210で達成率は高いと思う。春秋冬のコースだが一番利用したい夏コースは難しいのだろうか。 健康医療課回答:夏期はハイシーズンとなり、委託事業者における指導員確保が困難になることや、コースの一面を占有すると一般利用者の利用が困難になることが予想されることから、夏期コースの実施は検討していません。	健康医療課
26	あつぎ健康チャレンジ	・スマホアプリの活用は良さそうな気もするが、アプリに慣れていない高齢者は参加できない。みんなチャレに参加している人でもシステムが面倒だと思っている人もいるようだ。	健康医療課
30	あつぎ起業スクール開催事業	・とても楽しくいろいろな異業種の方と知り合えて良い経験ができる講座と認識している。毎年数人の方が実際に起業されてるが、誰がどんな起業をしたのか全くわからない。せつかく市が支援しているのだから、毎年起業された方のインタビューや事業内容等を広報すると良い。市民が知ることで厚木で起業された方を支援しようと思うかもしれない。アフターフォローまでが支援事業と言えるのではないか。	産業振興課
	基本方針2 あらゆる世代への生涯学習の環境整備 (事業No.31～73)	<p>・国の教育振興基本計画においては、社会人の学び直しや障がい者の生涯学習の推進が位置付けられている。厚木市においても子どもから高齢者までの全ての人が生涯にわたって、いつでも、どこでも、誰でも、何度でも学び続けることが出来るように取り組める環境づくりを推進することを願う。生涯学習に親しんでもらうためには、多くの魅力ある講座やイベントを創出し、あらゆる世代に向けた効果的な情報発信を行うこと。又、行政主導型の講座やイベントでは、内容や開催数などに限りが生じてしまうために市民や関連機関との連携協働により多くの学びの創出を願う。</p> <p>・「生涯学習に関心を持っていても子育てもあり忙しい」「共稼ぎで時間が無い」「施設が町の中なので遠くて行けない」「誘い合う仲間がいない」等の声を良く聞く。身近な「公民館」「児童館」「老人憩いの家」「学校」などをもっと活用できないかと思う。特に、立地的にも「公民館」は普段着で気楽に行けるので、地域の皆様の生涯学習へのさらに積極的な窓口になって頂くとうり難いとの声を聴く。</p> <p>・「厚木市文化会館」もリニューアルされたが、高齢者から「駅から遠いので行けない」「バス便も少ない」「せめて文化祭期間中だけでもバスセンターからピストン便を出して欲しい」との声は大きい。立派な文化会館の活用もこれら市民の声を充たせばさらに有効活用されるかと思う。</p> <p>・「厚木市短歌会」の事例として、同会は高齢化が進み、退会者も漸増しており、隔月に「アミューあつぎ」で開催している「歌会」への参加者も減ってきた。市の広報などで参加呼びかけも行ったが結果は出なかった。そこで、各地域を訪ねてその理由を探り、大別すると次の3つの理由があることが分かった。「短歌に関心はあるが、アミューあつぎでは遠い」「一緒に始める仲間がいない」「どんな内容か分からないので不安」。このため、各公民館で「学級講座短歌」を開催したところ、沢山の参加者があり、会員数が増えた。現在、7つの公民館で実施。今年は、更に3つ公民館で予定されている。高齢の方も参加して下さり、公民館だと自宅から近いため、安心との声がある。</p> <p>・生涯にわたる発達段階に生きる市民に対して、環境整備を充分に行っている。課題としては、SNS等の情報発信を活用し、さらなる生涯学習の環境整備を対面や実際の環境とともに、遠隔でも学べる機会や環境を増やすことが望まれる。</p>	危機管理課 地域包括ケア推進課 市民協働推進課 文化魅力創造課 環境政策課 予防課 救急救命課 教育総務課 選挙管理委員会事務局 介護福祉課 障がい福祉課 生涯学習課 中央図書館 商業観光課 スポーツ魅力創造課 農業政策課 青少年課 産業振興課 生活環境課
34	人権啓発推進事業	No34「人権啓発推進事業」とNo43「人権教育・啓発推進事業」は一つにして内容を拡充してはどうか。	市民協働推進課
35	男女共同参画推進事業	・「男女」というテーマがあると、女性の立場に対する理解を求める方向での議論が多い。女性に男性が合わせる視点も大切であるが、真の平等のためには逆の議論の場が成立する必要がある。	市民協働推進課
40	環境教育促進事業	・達成率が低く、それに伴って今年度は講座の実施回数を検討するとのことだが、市民の方の参加意欲を掻き立てるようなプログラムが必要かと思うので、昨年度の実績を踏まえ、講座内容の充実を図ることも必要である。	環境政策課
43	人権教育・啓発推進事業	No34「人権啓発推進事業」とNo43「人権教育・啓発推進事業」は一つにして内容を拡充してはどうか。	教育総務課

No.	実施計画事業名	委員意見	担当課
47	介護職員キャリアアップ等支援事業補助金	<p>・介護職員等の研修を修了し就労した場合、受講料の一部を負担、また求人募集の費用やキャリアアップに要した経費の一部を助成とあるが、これを一部ではなく全額にはできないか。令和7年度の予算額が前年の41,300千円から14,100千円に大幅に下がったのはどうしてなのか疑問。いずれは、目標値事業所数が厚木市にある全事業所数で、実績値も同じ数字であることが望ましい。</p> <p>・達成率の割には予算の執行率が低い。実績は目標値に近い数値ですが、予算要求時に積算根拠が甘かったのか根拠は不明だが、今年度は昨年の実績並みに予算措置されているので、的確な執行をお願いしたい。</p> <p>介護福祉課回答:介護職員等の研修受講料や求人募集に係る費用については、研修を受講された方や、費用を負担した事業所への受益者負担を求めているので、対象費用の一部について負担していただいております。</p> <p>また、令和7年度予算額が大幅に下がったことについては、過去の実績を考慮し予算が減額となったものです。</p> <p>令和6年度予算の執行率が低いことについては、令和6年度から新たに開始した「介護職等雇用サポート補助金事業(※)」の申請が周知不足により想定よりも少なかったことが原因であると考えております。</p> <p>(※)市内の介護保険指定事業所に対する支援事業として、現に就業している職員の職場環境改善等に係る費用に対して補助を行う事業</p>	介護福祉課、障がい福祉課
48	多文化共生交流事業	<p>・日本語教室ボランティアは、常に先生の人数が足りず、教室も狭く、イベントに使える経費も少なく、全てにおいて四苦八苦していると認識している。日本語講師養成講座を受講してもボランティア活動には参加しない、例え参加しても制約が多いのですぐ辞めてしまう、ということが繰り返されている。これからますます必要があると思うので、もう少し経費の増額、教室等の確保、会議、研修等のやり方や回数、日程等改善する必要があると思う。</p> <p>・令和5年度とほぼ同様の事業内容だが、達成率が低いのが気になる。事業内容は令和5年度と同様の講座等を実施したようだが、参加者に波があった。年々外国人住民登録者が増加しているので、事業そのものの周知徹底を図る必要があると思う。</p>	市民協働推進課
52	健康づくり村推進事業補助金	<p>・目標値を300から150に見直したのは適切だと思う。厚木・県央地区の自然や資源を有効に活用して健康づくりや地域の活性化に役立つ。厚木ではインバウンドの需要が少ないように思う。観光協会と協力してもらってほしい。不動尻のミツマタ大山寺のモミジなどウォーキングコースを整備して広く周知してほしい。</p>	商業観光課
53	市民スポーツ活動推進事業	<p>・目標値が高い。人口状況を考えると12,000人位が妥当だろう。実績値10,900人で90%達成。モルックは普及しつつある。雨天では屋外プログラムが実施できないため天候により参加者の変動が大きい。</p>	スポーツ魅力創造課
54	スポーツ推進事業補助金	<p>・スポーツ人口の拡大をはかっているがR5-12,878人、R6-9,792人と参加者が減っている。近年の夏の猛暑期間が長いことで運動したくてもできない環境が続いていることも一因だろう。体育館の冷房化も必要な時代になってきた。</p>	スポーツ魅力創造課
56	市民体力向上推進事業	<p>・70周年記念事業として講師の選定にも力を入れて参加者増につなげてほしい。</p>	スポーツ魅力創造課
57	市民芸術祭開催事業	<p>・事業57～59について。芸術は美術、音楽の両者がある。事業の総体を顧みるなら、造形的な芸術だけがスポットライトを浴びている。事業57は音楽的であるが、芝居ベクトルが強いものであり、純粋に音楽として成立する可能性も模索していただきたい。</p>	文化魅力創造課
58	野外彫刻造形展開催事業	<p>・野外での造形作品の展示やワークショップ。年々来場者が増えてうれしい。市ホームページ活用。</p>	文化魅力創造課
62	ジュニアリーダー育成事業	<p>・ジュニアリーダーのなりて不足もあるだろうが、地区の運動会や公民館まつりで活動してくれており、一役かっている。</p>	青少年課
65	市民交流プラザ運営事業	<p>・R5→325,000人をR6→260,000人に目標値を設定したため達成率が107.4%になった。目標値を低めに設定すれば達成率が上がるが、なぜ目標値を下げたのか説明が欲しい。他の事業でもこのようなことが見受けられるが、駐車場の半分が利用できなければ車で来る来場者は困っただろう。</p> <p>生涯学習課回答:コロナ禍を経た利用者数を鑑み、令和4・5年度の実績値を参考に、目標値を見直しました。</p> <p>【利用者実績】R4:232,319人、R5:276,019人 平均:254,169人</p>	生涯学習課
73	マナーアップ推進事業	<p>・マナー研修についても、事業No.「1」と同様に外国籍の人々とも共有できる工夫がほしい。</p>	生活環境課

No.	実施計画事業名	委員意見	担当課
基本方針3 生涯学習をいかしたまちづくりの推進 (事業No.74～84)		<p>・厚木市の特色は居住者と通過者の接触がほぼ見られないことである。大山路として賑わった頃までもそのような構図は垣間見られる。居住者にとって、厚木を単なる居住空間とするのではなく、「生きた空間化」にすることを旨とする必要があるだろう。事業80のように郷土の行事を「昔の遺物」ではなく、現代の視点で見直し、甦らせる試みも考える機会に変える視点も必要になってきたと考える。</p> <p>・生涯学習活動を通じて学んだことを地域住民との協働により都会と自然が調和した環境を、最大限にいかし誰もが住みたい・住み続けたい・住んでよかったと思える魅力あるまちづくりの取り組みを希望する。地域課題の解決に向け積極的に活動出来る体制の強化を切に願う。又、行政側から市民生活に関係する学習・講座等を厚木市の広報、又、公民館だより等で積極的に提供し、学んだ成果を地域内のまちづくりにつなげられる学習機会を提供する必要がある。</p> <p>・厚木市に「生まれて良かった」「育って良かった」「住んで良かった」「働いて良かった」「学んで良かった」「移住してきて良かった」「心豊かに過ごせて良かった」等の声をこれまで以上に沢山聴きたい。</p> <p>・生涯学習を通じて仲間が増え、心豊かに人生100年を過ごして頂きたいと考える。生涯学習を通じて友人、仲間が増えることで、この輪が地域に広がれば、「自助」「共助」「公助」の連携もスムーズになり、地域防災や地域防犯にも繋がるかと思う。結果的に「安心・安全で良かった」となり、冒頭の「良かった」がもう一つ増えると思う。「厚木らしさ」「あつぎの魅力」は「自然豊か」「歴史文化」からさらに膨らませていきたい。「生涯学習を通じてのまちづくり」も市民が理解し、納得して活動する「自主性から生まれてくる」と考える</p> <p>・「生涯学習の成果を活かした好事例」等も積極的に広報などで伝えていくと行政が尽力していることを具体的に理解でき、市民の関心度も更に高まるものとする。</p> <p>・流動化した現代社会の変化に対応しつつも、変わることをなく未来に渡って大切にすべき、厚木の自然そして伝統文化を維持し守っていくことが今後も重要であると考えられる。このように、変わっていくものと変わらないものをそれぞれ明確にして、今後とも厚木をすばらしいまちにしていく事業が展開されることが期待される。</p>	危機管理課 市民協働推進課 文化魅力創造課 農業政策課 生活環境課 公園緑地課 こども家庭センター
74	自主防災隊育成・強化事業	<p>・過去3年間の目標値を見ると、6年度以降は高い目標値を設定している。目標値をクリアするためにも早めに周知徹底するのが重要と考える。</p> <p>・目標値440人だったのがR6→1,250人だったので、実績値は778人で達成率62.2%に下がってしまった。自主防災隊育成事業なので、目標値を3倍にしたのかもしれないが、設定に無理がある。</p>	危機管理課
75	避難所運営委員会運営費交付金	<p>・5年度と同じ実績、また予算も消化しているのに実績値が低いのが気になった。</p> <p>・42委員会のうち19委員会が実施できなかったのは天候の関係だろうか。予備日が必要になるのか。予算額決算額が同じなので、実施しなくても交付金は出たのだろうか。</p> <p>危機管理課回答:事業予定であった防災訓練等については、台風の影響により中止する地区が多かった。交付金の交付については、対象事業として訓練以外にも定めている事業があるため交付している。</p>	危機管理課
76	避難所運営強化事業	<p>・42委員会のうち19委員会が実施できなかったのは天候の関係だろうか。予備日が必要になるのか。予算額決算額が同じなので、実施しなくても交付金は出たのだろうか。</p> <p>危機管理課回答:事業予定であった防災訓練等については、台風の影響により中止する地区が多かった。交付金の交付については、対象事業として訓練以外にも定めている事業があるため交付している。</p>	危機管理課
77	市民活動サポート推進費	<p>・日本は、欧米諸国に比べボランティア意識がまだまだ発展途上と思われるが、ボランティア活動に参加したいと思っている人は大勢いるのではと推察される。特に3分の1が高齢者と言われる日本では、退職後も社会の役に立ちたい、社会とつながりたいと望む方は多く、できる範囲のボランティア活動を探しているのではないかと。ボランティア希望の方の受付窓口を開いたり、すでに存在するボランティアグループの内容を聞くなど、ボランティア活動のサポートも必要だと思われる。</p>	市民協働推進課
79	地域学校協働活動事業	<p>・実績値は高いのに、予算の執行率が低いのが気になった。</p>	市民協働推進課
80	郷土芸能事業	<p>・新たに「相模ささら踊り大会」が加わり参加者増の実績値だが、達成率が低いのは毎年目標値が高すぎるのではないかと感じた。</p>	文化魅力創造課
81	農業後継者育成対策事業交付金	<p>・実績値が低いのに予算の執行率が高いのが気になった。</p>	農業政策課

●第4次厚木市生涯学習推進計画 基本理念（案）

- 1 生涯学習でつくる幸せと生きがいに含まれた豊かなまち
（国の計画の「ウェルビーイング」から）
- 2 あらゆる機会にあらゆる場所で 学びで紡ぐ豊かなまち
（総合計画の「いつでも、どこでも」 国の計画の「ウェルビーイング」から）
- 3 学びあい 学んで輝く 厚木愛
（国の計画の「他者との学びあい」から「あい」という言葉で韻を踏むようにしたもの）

●参考となるキーワード

国の教育振興基本計画

- ・こどもから大人まで一人一人が担い手となるウェルビーイングが実現される社会の創造
- ・個人のウェルビーイングが社会全体のウェルビーイングに
- ・人生 100 年時代は、同一年齢での単線的な学びや進路選択を前提とした人生のモデルから、一人一人の学ぶ時期や進路が複線化する人生のマルチステージモデルへ
- ・職業に直結した学びとライフステージの変化に応じて「人生を豊かにするための学び」や「他者との学びあい」を身近なものに
- ・年齢を問わず学び続け、生涯学習を通じて自らの向上や地域や社会への貢献の意欲を持ち、当事者として地域社会の担い手となる人を尊重する社会の実現

総合計画

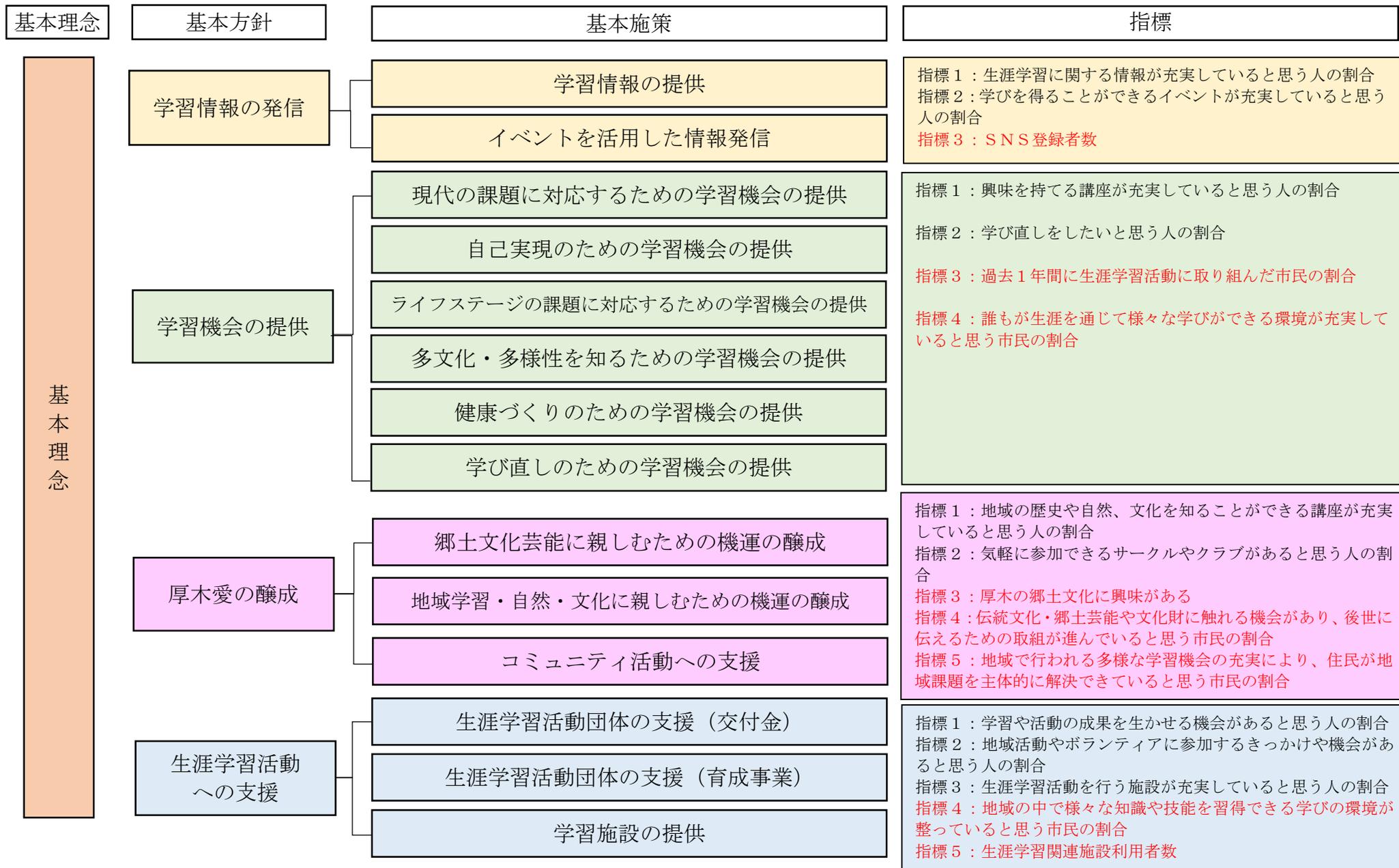
- ・ Together…ともに創る、育む
- ・ 誰もがいつまでも活躍できる環境づくり
- ・ 生涯を通じた様々な学びを通して、市民が豊かに暮らしています
- ・ 人生 100 年時代において、社会人の学び直し（リカレント教育）の必要性が高まっており、市内大学・市民団体との連携による講座を始めとする幅広い生涯学習の場を提供し、「いつでも、どこでも、誰でも、気軽に学習することができる環境」の充実が求められる

他自治体の基本理念・基本目標

- ・ 大和市：豊かな心を育む生涯学習のまちをめざして（R7年度～）
- ・ 青梅市：ともに 学んで 生きる まち（R6年度～）
- ・ 寒川町：ともに学び・ともに支えあう 自己実現と協働のまち・さむかわ（R7年度～）
- ・ 座間市：いつでも どこでも だれでも学べ、市民文化を創造できる ざまをめざして（R5年度～）
- ・ 愛川町：学びあい・ふれあい・高めあう 生涯学習のまち愛川～町民のウェルビーイングの実現をめざして～（R6年度～）

※厚木市（現行計画）：だれもが夢をはぐくみ、自ら学び共に成長する元気なまち（R3年度～）
厚木市教育振興基本計画：基本理念「未来を担う人づくり」・基本目標「挑戦・共生・創造」

第4次厚木市生涯学習推進計画の体系・指標（案）



※指標はR7・R11・R16の意向調査で比較

赤字は厚木市民実感度調査等で把握（毎年比較）